



1 活き活きと学びスタート



避難訓練を講評する学校長（中央）



消火器の使用法を説明する

5月27日(水)に、避難訓練が実施され、情報テクノロジー大学校と水戸産業技術専門学院の、学生と職員262名が参加しました。

火災発生時の避難経路と避難場所を確認し、消火器による初期消火を実施しました。消火訓練に参加した大森さん(水戸工卒)は「実際に起きた状況を想定して、真剣に指導をうけました」と振り返っていました。

2 新校舎で学びを深める



実習内容を説明する学生



大学校の説明会の様子

5月22日(金)に、高等学校の進路担当者に向けた内覧会が開催されました。この日、27校28人の先生方が参加されました。全体会では、専門課程の新たな5つのコースと応用課程の説明があり、4年制として開校した本校のコンセプトが紹介されました。その後、校内見学が実施され、実習中の教室にも案内され学生から説明を受けていました。

参加された大塚教諭(中央高)は「素晴らしい新校舎で、卒業生も楽しそうに学びを深めていた」と目を細めていました。

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞茨城新聞(2026年4月17日)

伝わる文章書き方学ぶ

常陽銀行が新人行員研修

●長山さん(中央高卒)

◇要約：結論など大事な順に伝え、言葉の重複をさけて、具体的でコンパクトにまとめることが新聞記事の特徴だ。読み手は誰か。何を強調したいかで書き方が変わる。5W1Hを意識するなど、新聞は身近な教材である。

◇感想：新聞に限らず、これからレポートを作成する機会がある。内容をコンパクトかつ具体的に書くことを意識していきたい。

誰が読むのか。何を強調するのかを意識しようと思った。特に、見出しと5W1Hを意識しようと思った。

●鈴木さん(太田一高卒)

◇感想：日常生活の中で、実用的な文章を学んでいくことは難しい。しかし、何を強調するかなど書き方を考え、作成されている新聞は、一番身近な教材である。

今後、新聞を読むように心がけ、自分の学びに活かしていきたい。

●松本さん(勝田工高卒)

◇感想：私自身も社会人兼大学生でやらせて頂き約二週間は研修を受けてきました。

この記事にあるように、「好きな食べ物」を取材して見出しで表現するのは難しいと思いますが、新聞を教材として読むことで書けるようになると思った。

●伊藤さん(茨キリ高卒)

◇感想：将来相手に伝わりやすい文章を書くことが必要であると考えた。

そうした文章が書けるようになるためにも、現段階から、様々な新聞記事を読んで、実用的な文章の書き方を学びたい。そのためにも新聞を読む習慣を身に付けたい。

●岩崎さん(土浦三高卒)

◇感想：新聞記事は、一文をコンパクトにまとめて、かつ内容は具体的の方が伝わりやすいとあったが、それ自体が難しいと感じた。

しかし、一人前の社会人になるには必要なスキルなので伝わる文章が書けるように努力していきたい。

新聞記事

文

ITから
創造した
未来へ